



No.13964 (2021.8.4)

サントリー文化財団
2021年度 研究助成「学問の未来を拓く」
「地域文化活動の継承と発展を考える」決定

公益財団法人サントリー文化財団（理事長 鳥井信吾）は、2021年度研究助成「学問の未来を拓く」として24件、「地域文化活動の継承と発展を考える」として5件の助成を決定しました。

A. 研究助成「学問の未来を拓く」

本プログラムは、人文学、社会科学の分野において、従来の「研究」や「学問」を問い合わせ直す知的冒険に満ちたグループ研究に対して助成を行うものです。本年度は応募総数292件のうち、別紙の24件を決定しました。助成総額は2,500万円です。

本年度は、合理性や目的志向が追求されがちな都市空間において、「歩くこと」の持つ意味を日本固有の文化の中で根本的に捉え直そうとする「散歩学の体系化—都市における歩く文化の復権にむけた試みー」（代表：滋賀大学環境総合研究センター客員研究員 近藤紀章氏）、「汚穢」「きたない」という概念と感覚をつまびらかにすることを通じ、倫理の新しい次元を描くことをめざす「汚穢の倫理：ケガレの社会的・環境的次元、および倫理の身体的・日常的次元」（代表：神戸大学大学院人文学研究科准教授 酒井朋子氏）など、新たな見地の提供が期待される冒険的な試みを多数採択しました。

なお、新型コロナウイルス感染拡大に関連する研究として、自粛・規制の対象とされ続けてきた「夜の街」についてその実勢と社会的な意義を多角的に検討する「コロナ下の『夜の街』のゆくえ」（東京都立大学法学部教授 谷口功一氏）なども採択しています。

B. 研究助成「地域文化活動の継承と発展を考える」

本プログラムは、日本の地域文化活動の継承と発展に寄与するグループ研究に対して助成を行うものです。本年度は応募総数74件のうち、別紙の5件を決定しました。助成総額は520万円です。

採択されたのは、地域住民と外部者とが地域の風景やまちなみを楽しみながら歩ける“フットパス”による地域づくりについて、先進地域である熊本県美里町の事例を振り返り、他地域への適応可能性を検証する「関係人口の創造を通した地域文化の魅力再発見と継承の地域ネットワーク構築」（代表：北九州市立大学基盤教育センター准教授 廣川祐司氏）などで、成果は地域文化活動へ具体的に還元されることが期待されます。

*選考委員

荒木 浩氏（国際日本文化研究センター教授）

隱岐さや香氏（名古屋大学教授）

金水 敏氏（大阪大学教授）

酒井 隆史氏（大阪府立大学教授）

中西 輝政氏（京都大学名誉教授）

山室 信一氏（京都大学名誉教授）

*サントリー文化財団研究助成（公募）について

当財団は、1979年の設立以来、人文学、社会科学の分野において、広く社会と文化を考えるための国際的、学際的な研究活動に対し助成活動を行ってきました。

現在は、グループ研究助成「学問の未来を拓く」「地域文化活動の継承と発展を考える」、個人研究助成「若手研究者のためのチャレンジ研究助成」の計3つのプログラムを設けています。それらの成果は論文発表・図書出版などで広く内外に発表されています。

*この件に関するお問い合わせ先

公益財団法人サントリー文化財団

研究助成「学問の未来を拓く」、「地域文化活動の継承と発展を考える」係

TEL 06-6342-6221 FAX 06-6342-6220

ホームページ <https://www.suntory.co.jp/sfnd/>

A. 研究助成「学問の未来を拓く」

No	研究テーマ	代表者
1	聴覚崇高の心理学的特徴と脳内基盤に関する学際的研究	関西大学文学部 准教授 石津 智大
2	日本の伝統文化『折る・結ぶ・包む』で知る立体の手触り	埼玉県立大学保健医療福祉学部 教授 石原 正三
3	習近平効果を検証する:現代中国の政策過程の可視化に向けて	青山学院大学国際政治経済学部 教授 林 載桓
4	生きられる〈音〉としての都市 — 視覚障害者からみた都市の可能性を探る実践的研究 —	東海大学国際文化学部 講師 植田 俊
5	南方マンダラと生物多様性 — 魚つき林の理を科学する —	大阪大学接合科学研究所 特任教授 大原 智
6	東シナ海域における「国境離島」の比較研究	早稲田大学高等学院 教諭 柿沼 亮介
7	東南アジアにおける民主主義の後退	慶應義塾大学法学部 教授 粕谷 祐子
8	中世末期ヨーロッパにおける「奏楽天使」壁画についての学際的研究	日本学術振興会 特別研究員 P D (受入機関:國學院大學文学部) 勝谷 祐子
9	通貨の未来:デジタル通貨に関する学際的研究	大阪国際大学経営経済学部 専任講師 川波 竜三
10	「復興」という理念を棄却する:被災者の実践にみる復原的意味	東京大学生産技術研究所 特任研究員 窪田 亜矢
11	島の生活誌と東アジア人類史 — 弥生時代の琉球列島はなぜ稻作農耕を受け入れなかったか	琉球大学国際地域創造学部 教授 後藤 雅彦
12	散歩学の体系化 — 都市における歩く文化の復権にむけた試み —	滋賀大学環境総合研究センター 客員研究員 近藤 紀章

1 3	汚穢の倫理：ケガレの社会的・環境的次元、および倫理の身体的・日常的次元	神戸大学大学院人文学研究科 准教授 酒井 朋子
1 4	コロナ下の「夜の街」のゆくえ	東京都立大学法学部 教授 谷口 功一
1 5	戦後日本におけるリベラル・モダニズムの総合的解明	立命館大学法学部 教授 徳久 恭子
1 6	新アーカイブ資料に基づくマケドニア文章語形成を巡る国際関係史再考	北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター教授 野町 素己
1 7	「アナーキーなまちづくり」の実践理論に関する研究	大阪国際大学経営経済学部 准教授 早川 公
1 8	自動運転（S A E レベル3以上）に関する倫理ガイドラインの起草	多摩大学経営情報学部 専任講師 樋笠 堯士
1 9	魅惑の「美声」：近代日本における声と情動に關わる言説構築過程の学際的研究	成蹊大学文学部 教授 日比野 啓
2 0	権威主義化する世界と憲法改正	法政大学法学部 教授 溝口 修平
2 1	心の「行動抑制ネットワーク仮説」に基づく「モノの心理学」の構築	信州大学纖維学部 准教授 森山 徹
2 2	持続的な観光に向けたDX観光の検証：仮想空間における真正な体験の国際比較分析	金沢大学人間社会研究域 准教授 山田 菜緒子
2 3	動物の幸せの判断基準の多様性と一貫性：学術的議論から社会への応用まで	京都市動物園生き物・学び・研究センター 主席研究員 山梨 裕美
2 4	戦後日本における「河内的なもの」と「船場的なもの」に関するメディア文化研究	神戸市外国語大学外国語学部 准教授 山本 昭宏

(敬称略、肩書きは申請当時)

B. 研究助成「地域文化活動の継承と発展を考える」

No	研究テーマ	代表者
1	棚田文化継承のための耕作マニュアル作成を通じた地域振興	新川田籠環境資産保全研究会 理事長 菊地 成朋
2	C O V I D – 1 9 下における祭礼・民俗行事の継承をめぐる困難と模索、新たな可能性	法政大学社会学部 教授 武田 俊輔
3	関係人口の創造を通して地域文化の魅力再発見と継承の地域ネットワーク構築	北九州市立大学基盤教育センター 准教授 廣川 祐司
4	沖縄県うるま市の現代版組踊『肝高の阿麻和利』による市民的公共圏の再創造	東京経済大学コミュニケーション学部 教授 本橋 哲也
5	茶産地静岡における茶会文化の特性に関する研究	静岡大学 非常勤講師 吉野 亜湖

(敬称略、肩書きは申請当時)

以上